

「浦島太郎」の話

浦島太郎という童話はとても面白かった。

でもほかの童話のようにたぶんたくさん意味がある。

はじめに人生の短さについて考えたが、ストーリーの色々な出来事^{について}の~~こと~~を考えて~~から~~^{いると}、様々な教^{かい}くん~~を~~見えはじめた。

先ず、小さいかめを^{助け}手~~伝~~わ^{かったら}なければ、竜宮~~城~~へ^は行^へかなかったので、その手~~伝~~う^{助ける行動}の性格はほ^うびが^{ある}からいい性^い格^と言^{って}いた。^{るたろう}

しかし、~~ゲスト~~^客だったのに、おひめ様はおじいさんにする玉手箱をあげたのでいいけいけんかどうか分^{わか}らない。^{浦島太郎にとって}

その~~事実~~^{しめしていること}は教訓^とも思^う。おひめ様は「決して開けてはいけません。」と言^っていたか^ら、開^けな^かった^ら、何^も起^こった。^{らなか}だから、

~~たぶん~~聞^きくこ^とは大切^な性^性格^もと言^ってい^る。^{たろう}

最後に、童話の意味は、よく聞^きいた^ら、人々^を手~~伝~~った^ら、十分^に生^きた^ら、人生^はい^いだ^らう^と思^ってい^る。^{人の言うことを}

いうことだ^と思^う